

2024年度永年勤続25年表彰について

2024年10月17日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、10月15日に、東京都立川市において、永年勤続25年の表彰式を下記のとおり開催しましたので、お知らせいたします。

記

1. 日 時 2024年10月15日（火） 11:30～11:50
2. 場 所 ホテルエミシア東京立川（東京都立川市）
3. 受賞者 4名

渡辺郁夫理事長が表彰式で受賞者に表彰状を手渡した後、永年勤続の労をねぎらうとともに、今後の活躍を期待するとのあいさつがありました。理事長のあいさつを受け、受賞者を代表して車両技術研究部長 瀧上唯夫が答辞を述べました。

【理事長あいさつ】

永年勤続25年表彰、受賞おめでとうございます。

皆さんは、この25年間鉄道総研においてそれぞれの業務に精励され、多くの成果をあげてこられました。皆さんのこれまでの各業務でのご尽力に心から感謝するとともに、ご活躍に敬意を表します。そして、皆さんの活動を支えてこられたご家族の皆さまにも感謝いたします。

皆さんが入社した平成11年は西暦では1999年、世間では世紀末、ミレニアムという言葉が語られ、2000年問題がにわかに注目を集めました。

鉄道に関しましては、東海道新幹線への700系の投入、あるいは山形新幹線の新庄延伸など、バブル崩壊後の厳しい経済状況の下にあっても新しい技術の着実な導入、あるいは鉄道のネットワークの拡大が進められた時期でもありました。

鉄道総研では、10月に世界32か国から700名を超す参加者が集まり、国立研究所をメイン会場として、WCRR'99を開催しました。また軌間可変電車の試験を米国コロラド州プエブロで本格化させ、あるいは山梨リニアの有人走行552km/hの世界記録達成など、鉄道総研の活動を世界に十分にアピールできた時期でもありました。

それから25年が経過し、日本の鉄道を取り巻く状況は大きく変わってきています。自然災害の激甚化、生産年齢人口の減少、脱炭素化に向けた取り組みの必要性など、鉄道事業にとっては、解決を急がなければならない課題も多く生じています。

この状況を乗り越え、鉄道を一層輝かせるための最大のカギは「技術」であります。今、私たちは、



表彰状を手渡す渡辺理事長と受け取る受賞者

News Release

鉄道の安全性の向上、デジタル化による鉄道業務の革新、脱炭素化に向けた取り組みなど、全力で取り組むべき課題がたくさんあります。そのためには、25年にわたり鉄道総研において力を培い、いろいろな分野で活躍してきた皆さんの力が必要です。勤続25年という節目の年を、これまでの歩みを振り返る年とするとともに、これから新たな気持ちで再スタートする年として頂きたいと思っております。また、新たなことにもチャレンジしてほしいと思っております。そして、皆さんに続く後輩を育成することも重要な役割として期待しております。



あいさつする渡辺理事長

皆さんのこれまでのご活躍、ご尽力に改めて感謝するとともに、今後のさらなるご活躍を期待して、そして皆さんのご健勝を祈念いたしまして私のお祝いのあいさついたします。

【受賞者代表答辞要約】

本日は、私ども4名に永年勤続25年表彰を賜り、誠にありがとうございました。

この25年の間、鉄道総研は、革新的な技術を創出し、鉄道の安全性、信頼性、利便性、快適性の向上に貢献することで、その存在感を示してきましたが、中でも私どもは、車両、軌道分野の研究開発や国際規格に関わる業務に従事し、鉄道総研のプレゼンス向上に努めてまいりました。私どもの取り組んできたことが、鉄道総研の運営や、ビジョンにも示されております。鉄道の発展と豊かな社会の実現に、いくばくかの貢献をなし得てきたのであれば、大きな喜びであり、誇りでもあります。



答辞を述べる瀧上唯夫車両技術研究部長

一方、鉄道を取り巻く環境においては、自然災害の激甚化や生産年齢人口の減少が進んでいることに加え、2050年カーボンニュートラルの実現など、鉄道の維持発展のための具体的な取り組みが強く求められています。これらの課題解決に向けた革新的な技術の創出は、公益財団法人としての鉄道総研の責務であります。鉄道界や社会からの負託に応えるべく、自然災害に対する強靱化をはじめとする安全性の向上を最優先の課題としつつ、デジタルトランスフォーメーションによる業務の無人化、省人化、省力化など鉄道の生産性の抜本的な向上に加え、鉄道の脱炭素化などに向けた課題にも取り組み、鉄道技術の最先端を担う存在であり続ける必要があります。さらに、災害等の原因究明や対策提案、鉄道技術の国際標準化への貢献は、鉄道総研ならではの重要な社会的役割です。

鉄道総研では、基本計画RESEARCH2025の最終年度を迎え、進捗状況を的確に把握し、目標を達成すべく邁進する大事な時期です。私どもは、これまで積み上げてきた個々の専門性と、分野を横断した総合力を発揮し、既存の手法にとらわれることなく柔軟に業務に取り組んでゆく所存です。本日の永年勤続25年表彰を機に、私どもに課せられた使命を今一度、肝に銘じ、鉄道総研の一層の発展と社会への貢献に向けて、今後とも業務に精励することを誓い、お礼の言葉とさせていただきます。